別記様式第6

論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　文学　） Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	孟　夏
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)

『酔翁談録』研究

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)	教授	川島　優子
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	小川　恒男
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	久保田　啓一
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	陳　翀
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	屋敷　信晴（熊本大学）

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

本論文は、宋代に成立したとされる文言小説集『酔翁談録』について、成立の背景、成立の過程、後世の受容の各方面から全面的な考察を加えたものである。本編は、序章、第一部、第二部、第三部、終章の五つの部分からなる。また資料編（付録）として訳注稿（巻一甲集～巻一乙集）を付す。

序章では、まず『酔翁談録』という書物の概要を述べ、関連する先行研究を整理した上で、本書が中国小説の展開を考える上で重要な作品であること、その一方でほとんど研究が進んでいない現状を指摘し、本研究の目的と方法を示す。

第一部では、『酔翁談録』の成立背景について考察を加える。

第一章では、書名の中の「談録」という言葉に着目し、同様に「談録」と名付けられた唐代から清代に至るまでの「談録」作品の特徴を考察し、『酔翁談録』も「談録」群のひとつとして理解する必要があることを指摘する。

第二章では、同じく書名に見られる「酔翁」という言葉を手掛かりに、編者とされる羅燁なる人物をめぐって、廬陵地方の名門羅氏一族の文学活動について考察を行う。その結果、本書が、文人たちの酒席での語らい、それも女性に関する話を主に収録したものだということを導き出す。

第二部では、『酔翁談録』の成立過程について考察を加える。

第三章では、『酔翁談録』所収の話と、前代あるいは同時代の他のテキスト所収の同話を調査し、文字の異同を詳細に検討する。その結果、編者羅燁は、ひとつの話を書くに当たって複数の既存の書物に基づきながら文字を補い、より完成度の高い話を復元しようとしていたという結論が得られた。これは、既存の物語→酒席などで語られる→それが記録されるにあたってより完成度の高い物語になる、という成書過程の一端を窺わせるものである。

第四章では、特に『酔翁談録』で加筆された部分を検討する。その結果、会話文が増えたり、男女の情愛に関する描写が詳しくなったり、口語性が強くなったりと、より通俗化していることが指摘される。

第五章では、同時代の類似する書物にも検討を加えることで編者の意図に迫る。その結果、編者は単に宴席での語らいを記録するのではなく、広く「読まれる」ことを意識して本書を編集したことが指摘される。

第三部では、『酔翁談録』の受容について考察を加える。

第六章では、現存する唯一の版本である『新編酔翁談録』の成立年代について、版式や文字から元代

以降に刊刻されたものと判断すべきで、従来の宋版説は成立しえないこと、また出版側の人物が、利潤を追求するために様々な工夫を凝らしていることを指摘する。

第七章では、『酔翁談録』の後世における受容の状況を検討する。本書は刊行後一時的に流通し、語り物などの俗文学にも影響を与えたようであるが、明代に至ると激しい出版競争に敗れ、次第に表舞台から姿を消したことが指摘される。

以上を踏まえ、終章では、中国小説史における『酔翁談録』の位置づけを明らかにすると同時に、今後の小説研究における課題を指摘する。

本論文は、従来資料的な限界もあって明らかにされてこなかった『酔翁談録』の成立や受容について、最新のデータベースを駆使して蒐集し得た膨大な関連資料を丹念に読み込み、緻密かつ実証的にアプローチしたうえで、『酔翁談録』を小説史に位置付けようとした意欲的な論文である。全体の整合性に一部課題は残るものの、宋代の小説のあり方、宋〜元代の出版の様相、文人文学と俗文学との関わりなど、今後の中国小説研究に資する重要な研究として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考　要旨は，1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)